

令和 4（2022）年度ヒラメ太平洋北部系群の 管理基準値等に関する提案

国立研究開発法人水産研究・教育機構並びに共同実施機関は、令和 4（2022）年度ヒラメ太平洋北部系群の管理基準値等に関する研究機関会議において、令和 5 年度以降の資源評価に必要な科学的パラメータについて議論し、以下の点を提案する。

適用する管理規則

「令和 4（2022）年度漁獲管理規則および ABC 算定のための基本指針（FRA-SA2022-ABCWG02-01）」で示された 1 系資源の管理規則を適用する。

管理基準値

- ・ 目標管理基準値は、親魚量（SBmsy）で 4,078 トン
- ・ 限界管理基準値は、親魚量（SB0.6msy）で 828 トン
- ・ 禁漁水準は、親魚量（SB0.1msy）で 128 トン
- ・ なお、最近年（2021 年）の本系群の親魚量は 4,699 トンである。

調整係数 β

- ・ 今後の加入が過去に見られた平均的な強度で発生するとした場合、 β が 0.9 以下の漁獲圧であれば、10 年後の親魚量は目標管理基準を 50%以上の確率で上回ると推定された。ただし、再生産関係選択や資源評価等の一般的な不確実性を考慮すると β は標準値である 0.8 以下にすることが望ましい。

その他

- ・ 再生産関係のパラメータ推定に使用するデータは、令和 4（2022）年度の本系群の資源評価で VPA により推定された 1990～2021 年の加入量および親魚量を用いた。
- ・ 本系群の再生産関係としては、自己相関を考慮しないホッケー・スティック型関係式を適用した。パラメータ推定には最小絶対値法を用いた。
- ・ 目標管理基準値案での親魚量（SBmsy）で期待される漁獲量（MSY）は 1,551 トンである。
- ・ 本提案は調整係数 β を 1 から 0 の間で 0.1 刻みに検討した将来予測結果に基づく。
- ・ 太平洋中部系群との分布域の境界が千葉県の上総地区と安房地区の境界にあたるため、資源管理においては千葉県内の調整に配慮する必要がある。